

岐大通 2008



絵：ひらっち

『ぎだいでおり』は、F C岐阜のサポーターが小さな話題を集めて試合会場でお配りしています。試合前の時間つぶしにご利用ください。会場に残されるとごみになってしまいますので、お持ち帰りください。会場美化にご協力を。

2008J2

■過去3試合の結果■

第41節 熊本1-1岐阜

(管)

第42節 岐阜0-1横浜FC

第44節 湘南3-0岐阜

■順位表■第44節終了

(勝点、得失点差、得点、岐阜戦の戦績(岐阜から視て))

1 広島	97p	+61	96	△●●
2 山形	75p	+25	65	○●●
3 仙台	67p	+14	61	●△●
4 C大阪	66p	+20	79	●●●
5 湘南	65p	+22	67	●△●
6 鳥栖	64p	0	50	●△
7 甲府	58p	+9	56	△△●
8 福岡	55p	-13	52	○●△
9 草津	53p	-6	45	●△●
10 横浜C	49p	-5	51	●○●
11 水戸	47p	-17	52	○●○
◇12 熊本	43p	-26	46	○△△
13 岐阜	39p	-29	40	—
14 愛媛	37p	-26	38	●△●
15 徳島	29p	-29	40	○●△

(◇は消化試合が1多い)

ALADDIN

何も無い店だけど・・・
心の花が咲く・・・
何も無い店だけど・・・
心癒される・・・
忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)

「いらっしやいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から
徒歩3分【玉宮町通り南】。
休：日曜日(今日は営業します)

サガン鳥栖 戦

today's guest - welcome to GIFU -
サガン鳥栖

1997年、JFL「鳥栖フューチャーズ」を引き継ぐ形で創設。一時期、経営問題で存続危機になるも克服、現在ではJ2で安定して上位につける。今年の天皇杯ではJ1大分&神戸に連勝し8強に残る。ホームスタジアムはベストアメニティスタジアム。
■岐阜×鳥栖：過去の公式戦＝0勝1分1敗
最近の対戦：J2第30節 鳥栖0-0岐阜

◇第42節・ホーム横浜戦

●久スタメンの17山田が実によくがんばった。視野を広く取って危ない形を作られないようにしてこ一番では果敢にディフェンス。相手の右からの攻撃をほぼ無力化できていたと思う。それだけに前半何度か訪れたビッグチャンスを生かせなかったのと後半選手交代直後のセットプレーから一瞬の間をつかれての失点が残念。決めるときは決める、気持ちを切らさず守る。これを徹底してホーム最終戦に臨んでほしい。(ST57)

◇第44節・湘南戦

●序盤に攻め込んだのは岐阜。しかし得点が奪えず徐々に相手のペースになり前半15分に敵の先制。選手達も諦めずに攻め続けるが、後半27分・35分に追加点を許してしまい敗北。気がなつたのはシュートの数。ボールを大事に持ちすぎで僅か4本しか撃たないのでは、勝てる試合も勝てない。もっと積極的に中距離からでも強引にゴールを狙う姿勢が欲しい。いよいよ今期最終節。様々な面で厳しい試合になるだろうが、今年最後の試合を勝利で飾って締め括って欲しい。(ささたく)

●この日の平塚競技場メインスタンドの向こうには、冠雪の富士山が鮮やかに姿を現していた。今季も残り2試合。密かに、種々雑多の噂も流れる中、締めくくりのアウェイを勝利で飾りたかったが、シュート4本、そのうち枠内が康太のバーに当たったヘッド一発では、ここまで五分の成績だった、根拠のないアウェイ力とやらにも期待したが、昇格を争うクラブには通用しなかった。見所がなかったわけじゃない。特に、K、Oから15分間はウチのターン。ただ、チャンスの芽は作れても決定機まで持っていけない。その結果がシュートの少なさ。足りないのは決定力ではなく決定機。おまけに、数少ない決定機にPA内で時間をかけては壁ができるのは至極当然。悲しいけれど、彼我の差を十二分に味わう試合となってしまった。それでも、右SBに入った竜真は伸び伸びと思いつりのいいプレーを披露してくれた。今後がとてもしんどい。不慣れな左に回った吉村には気の毒だったけれど。(ぐん、)

●今季初出場だったルーキー橋内は試合の中でも成長し、試合後には来季の飛躍を確信させた。交替出場した藪田、大友をはじめ他の選手もよく戦っていた。しかしそれでも「完敗」としか言いようのない試合だった。悔しさすら残らないほどに。「J1昇格」に向けベストメンパーを揃えた湘南と、来季を見据えた布陣で臨んだ岐阜。その差は本来の実力以上に大きく、スコア以上に開いてしまったようだった。やはり、サッカーでは「モチベーション」は重要。これまでは「毎年昇格」という義務感に尻を叩かれていた岐阜だが、今年は何を目指して戦えばいいのかわからないまま過ごした1年だった気がする。

思い返せば、湘南もメインスポンサーの撤退からチーム消滅の危機に立たされ、主力選手を軒並み放出。その代償としてJ2に降格し、J2でも下位に低迷する時期を経て、今年ようやく最後まで昇格争いをする力を取り戻したのだ。その間、実に10年。

岐阜もこれから苦しい時期を過ごすだろう。どれくらい過ぎることになるかはわからない。でも、いつか再びヒトリするようになる「昇格争い」に加われることを信じて、今日もがんばって応援しよう。この声が未来につながることを信じて。そして、ここまでF C岐阜を育ててくれた選手たちに感謝するために。試合後に聞いた話では、湘南の選手達は「岐阜はいいサッカーをする」と口々に言っていたとのこと。いい「サッカー」をする。これがリップサービスでなければ、今年やってきたサッカーが必ず来季以降に生きるはず。。。だよ、松永さん？(ひらっち)

12/6(土) 12:00~
@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場

◇F C岐阜を去ることになった選手たちに「ありがとう」を

●河野直人 GK・1
出場機会には恵まなかったが、コミさんなどと一緒に西田をきっちり指導してくれた。リメイン組でも腐らずにGKの役目をしっかり果たしていた。

●深津康太 DF・2
普段とピッチ内のギャップが、いい意味で大きかった。ポカもやらかすが、気持ちのこもるプレーを見せてくれた。「深津大作戦」には助けられた。

●小峯隆幸 DF・4
声の大きさ等チームの中で一番目立っていた人物。もっともサポを大事にしてくれた方。練習時には味方への緩慢なプレーを叱咤し、その後のケアも忘れない。コミがない練習風景はまだ想像がつかない。

●奈須伸也 MF・6
駒のなかった左サイドを補ってくれた選手。時に足技、ロングスローで観客を魅了。一時やっかみもされたが、自分のプレーに忠実だった。終盤フィットしただけに残念。

●北村隆二 MF・7
いわずと知れた岐阜の中盤。相手の攻撃の芽を摘むことに対してはチーム随一。JFL入れ替え戦のゴール時の笑顔が印象的。いたずら好きの一面を見学時に多く見た。黎明期から岐阜を支えてくれた貴重な人物。残念である。

●相川進也 FW・9
昨年J昇格に来た最強の助っ人。今期は数少ない得点だが、彼あってこそその得点ばかり。不遇な使われ方が多かったが結果を出した故に残念。天皇杯3回戦突破は彼あってこそ。昨年の水島三菱戦のゴールは現地の語り草。和正とのやりとりは見学時の楽しみだった。

●山田正道 MF・17
東海リーグ終盤にアルテ高崎から移籍。当時、長身選手の加入で皆の話題。リメイン組でもサボることなくクールダウンまできっちりこなす。性格がとにかく真面目。ジェフリザ戦のゴールは印象的。昨年の大怪我さえなければ……

●藪田光教 MF・18
怪我で序盤出遅れるも復調。序盤リメインだった頃からは予想できなかった活躍。惜しくも今季ゴールはなかったが、得点の香りを感じさせるプレー多数。

●吉村光示 DF・19
何処でもこなせる万能型の選手。ピッチで大怪我をするも必死でプレーする姿が印象的。若手の育成環境をすごく気にしていた。今年のRSBは彼以外考えられなかった。

●小島宏美 MF・20
プロ中のプロ。スピードの緩急だけで相手を置き去りなど技術は数知れず。口には出さないがかなり情に厚い人物。ピッチの内外全てで選手の兄貴分。東海リーグでのフリーキックは忘れない。私が現場に戻るきっかけだったから。

●日野 優 GK・21
2年間岐阜のゴールを守ってくれた人物。彼がいなければ今の状況はない。本当に負けず嫌い。それは練習後のフリータイムでも見て取れた。彼にはピッチ外でも本当に楽しませてもらった。残念である。

●西田信孝 GK・22
出場機会は残念ながら無し。上3人との差は正直言って高かった。途中腐ることもあったが、終盤は気持ちを入れ替えて練習に励んでいた。

●岩田昌浩 MF・23
今シーズンは途中出場が多いながらもその役目はきっちり。結構熱いタイプ。昨年のガイナール戦ではリベンジを果たす。そのプレーには感服させられた。

●佐藤 聡 MF・28
大回りしてようやくJ出場を果たす。戸塚監督の下では万能型としてプレー。彼を語るにはJFL開幕HONDA戦のゴール。そして全社でのハットトリック。

●梅田高志 MF・33
西濃運輸がJFLに存在した時代を知る選手。ミスタートリニティ。ホーム初得点のミドルや第一クールの熊本戦の存在感は別格。駒のいないこのチームで本当に大車輪の活躍。選手生命を重視した選択と思いたい。

(ち〜な)

◇大特集・今年の、そして来年のFC岐阜について一言。

●J2昇格元年。チームが立てた目標の成績10位以内は叶いませんでしたが、何度もスタジアムに足を運び楽しませて貰えました。選手・チーム・サポーターの皆さん有難うございました！

また、ゴリ！本当に今まで有難う！
これからも、あなたの気持ちをお忘れのことはありません。今日のゲームでのゴリゴールを期待してます！

1つだけお願い！来期はホームでたくさん勝利をみせて♪そしてスタジアムをたくさんサポーターで溢れさせましょう♪

今年一年ありがとう！これからもよろしく！（まゆげ）

●サッカーチームが好きというよりも、『岐阜にあるチーム』だから、そして、『岐阜を、地域を、盛り上げるチーム』だから、私は好きです!!別に、夢なんて大きなことを言わずに、子どもたちの、ただ見かけだけじゃない『カッコいい目標』になるような身近なチームでいて下さい!!寄り集めで上を目指すよりも、地域と一緒に泥臭く這い上がってチームのほう、みんなも親近感が持てるのでは!?他のJにはない、いや、Jじゃなかったって、『岐阜のチーム』として、人も、チームも地元で根付くことが大事だと思います!!!!だから、もう一回、地元愛で立て直しましょう!!! (ちの。)

●「負けるならば、0-1より2-3にしる」「観客を増やすためには、とりえずシュート打て、エリア周囲で回すな」「片桐はゴールへ行かずにボールをこね回すので見ていらいらする」(隠居者)

●今年のFC岐阜は、練習を見学に行ってもつまらない。監督や選手それぞれの溝が大きく感じる。戦術の練習は見えるが、セットプレーの練習はほとんど見た覚えが無い。素人には「魅せる事が大事」。ゴールネットが揺れないと面白みが無い。

来年は、今年よりは少しでも上の成績を残せるように、「毎年の”積み重ね”を希望する。(ち～な)

●たとえ負け試合でも試合後の挨拶を全員に徹底していただきたい。わたくしはスポーツ少年団の指導をしているのですが、一列に並んできっちりとするよう指導をしています。「子供達に夢を」というスローガンがある以上、社会人としてしっかりとした姿勢で臨んでほしいものです。

サポに一言。交代選手に対するエールが無いので誰が変わったのか分からない。わたくしはメイン観戦者なので問題ありませんが、一般の方は館内放送が聞き取れるだろうか?たしか昨年は出来ていたはずですが、そのあたり一考していただきたいと思っています。(メインよりの使者)

●12月1日、チームから契約満了選手の発表があった。以前から「大量リストラ」「15人」なんて新聞報道があったがそれが現実の物となった形。リストアップされた選手を見ると日野選手、北村選手、梅田選手……等主力級も多数含まれている。これが恵まれない練習環境の中で頑張った選手に対する仕打ちか?これがチームの現状だと言う事なのか?正直物凄く悔しい。考えると今でも涙が出てくる。今は最終戦にて感謝の気持ちを込めた応援をする気持ちでいっぱいです。今回契約満了となった選手の皆さん。本当にありがとうございました。そして本当にごめんなさい。「2008年12月1日」という日は、きっと忘れない。(シュナ)

●FC岐阜の選手の皆さん、そしてサポーターの皆さん、1年間お疲れ様でした。J2に昇格した時には心から嬉しかったけど、以前のようにOジマくんを筆頭に選手みんながなかなかお店に会いに来てくれなくなったのがすごく寂しいです。

別にお金を使えとは言っていないけど、せめて顔だけでも見せに来てほしいです。選手が来なくなった間には、すっかりサポーターの仲間と仲良くなったも～ん。だけど、チヂミ屋ファミリーはいつだってウェルカムだよ!! (チヂミ屋)

●2009年こそ上位進出を! (ゆっきい)

●「ホームで勝ってほしい」これにつきるかな(笑)。もちろん勝負の世界、ままたまならないことは重々承知です。JFL在籍の2007年シーズンあたりからなかなかホーム長良川競技場で勝てなくなりました。ゴール裏で声を出して応援している僕のようなものにとってはそれでも信じてサポートを続けていきます。それは揺るぎません。しかし、敗戦後のバックスタンドやメインスタンドへむかかっての選手の挨拶の際、どうリアクションしてよいかわからず微妙な空気のなか最早に帰路に着く人の流れを見とやっぱりよちよちとさびしいんですよ。「スタジアム全体で喜びを分かち合いたい。」だからこそこんな当たり前のことを改めて主張します。贅沢ですか? (笑) (ST57)

- 第1節 甲府1-1岐阜 (小島宏)
- 第2節 岐阜0-1仙台
- 第3節 山形3-5岐阜 (高木2、片山2、菅)
- 第4節 岐阜2-1徳島 (梅田、片山)
- 第5節 C大阪1-0岐阜
- 第6節 岐阜1-1広島 (菅)
- 第7節 福岡1-5岐阜 (片桐2、高木、梅田2)
- 第8節 岐阜2-3横浜FC (片山、吉村)
- 第9節 湘南4-2岐阜 (川島、OG)
- 第10節 水戸1-3岐阜 (森山、片山2)
- 第11節 岐阜0-3愛媛
- 第12節 岐阜0-1鳥栖
- 第13節 熊本0-2岐阜 (梅田、片桐)
- 第14節 草津1-0岐阜
- 第16節 岐阜0-5 C大阪
- 第17節 岐阜1-1甲府 (菊池)
- 第18節 愛媛0-0岐阜
- 第19節 岐阜0-0熊本
- 第20節 横浜FC0-1岐阜 (菅)
- 第21節 草津1-1岐阜 (片山)
- 第22節 岐阜0-1福岡
- 第23節 徳島0-1岐阜 (小島宏)
- 第24節 岐阜2-1山形 (片桐2)
- 第26節 広島4-0岐阜
- 第27節 岐阜0-0湘南
- 第28節 仙台1-1岐阜 (片桐)
- 第29節 岐阜0-1水戸
- 第30節 鳥栖0-0岐阜
- 第31節 岐阜1-1徳島 (大友)
- 第32節 草津3-1岐阜 (片桐)
- 第33節 岐阜0-1愛媛
- 第34節 広島7-1岐阜 (片山)
- 第35節 岐阜0-6 C大阪
- 第36節 仙台1-0岐阜
- 第37節 甲府4-0岐阜
- 第38節 岐阜1-1福岡 (相川)
- 第39節 水戸1-4岐阜 (川島、梅田、片桐、大友)
- 第40節 岐阜1-2山形 (佐藤洸)
- 第41節 熊本1-1岐阜 (菅)
- 第42節 岐阜0-1横浜FC
- 第44節 湘南3-0岐阜

●2005年1月、未来会館に岐阜出身の現役・元Jリーガーを集め開催された『岐阜にもJを』なるシンポジウムの協賛をしたことをきっかけとして『FC岐阜』を支援してきました。その前月、2004年12月に名古屋グランパスを引退したばかりの森山泰行がブレインゲーマネージャーとしてFC岐阜に加わるのが発表され、FC岐阜がJリーグへ向けて大きな一歩を踏み出した時期です。

その一ヵ月後、弊社では現役若手選手を社員として採用しました。現在、会社では経理マンとして金庫番的存在である曾我部巧君です。彼が会社に馴染んでいくと共に社員、その家族などとの関係者の観戦が増えていきました。彼の存在があったからこそ、今日までFC岐阜へのサポートを会社として続けることができたのでしょうか。

2005年は東海リーグ2部最終戦で大差の勝利をもって、3位とは同勝ち点ながら得失点差2位の成績で一部昇格を勝ち取り、2006年には東海リーグ1部で優勝した後、JFL(上から数えて実質Jリーグ3部)への昇格をかけて臨んだ日本全国の地域リーグの代表チームとのリーグ戦においてJFL下位チームとの入替戦の権利を取得し、入替戦にも勝ってJFL昇格を決めました。

昨年、2007年はJFL最終戦までJリーグ入会条件の4位以内が確定しない激しい順位争いの末、最終戦に勝って3位の成績を収めJリーグ入会を認められました。毎年、上のカテゴリーのリーグへの挑戦というテーマを持ち、ハラハラドキドキの劇的昇格劇が繰り広げられてきました。

Jリーグ参入初年度の今年はチーム成績は下位に低迷し、運営体制の強化が課題とされながらもメインスポンサーは空席のままシーズンを終えようとしています。そんな中、去る9月には地域リーグからJリーグまでチームを引っ張ってきた森山泰行が今期限りで選手を引退することを発表しました。

笠松中学を卒業した後、彼が岐阜を離れ東京の帝京高校に進学したのは厳しい競争がありハイレベルのサッカーを身近に触れることができる環境を欲してだったといえます。実際、彼以外にも多くの優秀なサッカー少年が岐阜から県外に流出しています。弊社の曾我部君も鳥栖を卒業した後は静岡の清水商業に進みました。

岐阜の子供たちが県外に出なくとも、岐阜でプロサッカー選手を目指す環境があると実感できる存在にFC岐阜を確立しようと森山は語ります。また、スロヴェニア(旧ユーゴ)リーグの強豪チーム・ヒットゴリツアに在籍したこともある森山は「地域に密着したチームに…」

という言葉を繰り返します。彼によると、ヨーロッパでは3部・4部の下部リーグのチームでも「オラが街のチーム」として親しまれ、カフェや酒場の話題になり、試合には多くの街の人が集まるそうです。オラがチームの試合は、地域の大イベントであり祭りでもあるのでしよう。

『地域社会と一体になったクラブ作り(地域貢献活動を含む)を行い、サッカーをはじめとするスポーツの普及および振興に努めなければならぬ』というJリーグの理念に呼応して、NPO法人・スティックルバック・スポーツクラブが「地域密着」「底辺からの底上げ」という姿勢と「産・学・官・民」連携で、FC岐阜(=岐阜の未来)を創りだそうしていたところに、森山が加わったのです。

豊富な実戦と多くの修羅場体験に裏打ちされた、急速なチーム・現場の強化は軋轢も生み出しました。しかし最短の道りでJリーグ入りを果たしたことは紛れもない事実です。また、多くのJリーグチームに留まらずヨーロッパのチームにまで在籍した彼の稀有な体験による生の声・意見が理念に肉付けをし、地域とスポーツの関わりについての理解がすんだこともまた事実です。

堀の上を走るがごとの4年間でした。現在、岐阜にはJリーグチーム・FC岐阜があります。今日のFC岐阜が築かれたのは彼がいたからです。負の部分のみを見て、それを批判する人も残念ならいようです。『良い人にも悪いところはある。悪い人にも良いところがある。みんな良い人である。』と考えるならば最近ホームゲームで長良川競技場・バックスタンドに掲げられている『森山があつて岐阜がある』なる横断幕は正鵠を射るものです。

森山は『岐阜の顔であり、宝です。』『FC岐阜』は街の財産である、またサッカーは『する』『見る』だけでなく、『支える』『勇気付ける』という心を豊かにする要素があると知ることができたのも、森山がいたからこそです。

ありがとう、森山。今日、長良川競技場において、選手・森山の最後の試合が行われます。多くの人が彼の勇姿を焼き付け、彼に声援を送ってほしい。それが岐阜の街の活性化・発展に繋がると考えます。(中川稔之)

●ちょうど1年前奇跡のJ昇格。年が明けてJ初めての試合は甲府は小瀬競技場でした。甲府の駅前ののぼりに圧倒される。会場でのほうとうの振舞いに感激。アットホームで、わが町のチームという雰囲気とホスピタリティに、この街にプロスポーツの文化が根付いていると感じた。

記念すべきホーム初戦の仙台戦。サンサンデッキを手をつないで行く親子を見て「わが町にJが来たんだ、ホームの試合日にはアミューズメントパークが長良川競技場に出来るんだ」と思った。岐阜にプロスポーツ文化の到来である。

今から20数年ほど前、大学生だった私は、出身小学校でサッカーのコーチをさせていただいていた。小学校でサッカーに出会って、その魅力に取り付かれ、その楽しさを一人でも多くの子供に知って貰いたかった。

ある日、県営グラウンドで私がレフェリーをしていた試合で、加納西小の小さな選手が目にとまった。その少年は素早い動きと細かいステップのドリブルでDFをかわして得点した。同じチームにいた従兄弟に名前を聞いた。「モリヤマだよ」と彼は言った。そう、それが森山泰行だったのです。

それ以来、私は彼のサッカー選手としての成長を気にかけていた。時は過ぎ、その当時は思いもよらなかったサッカーのプロ化と、W杯出場が実現した。モリヤマ君は森山選手としてグランパスで活躍していた。そんな彼が現役を引退する時が来た。

岐阜出身選手として彼は地元に近いチーム、名古屋でユニフォームを脱いだ。しばらくして新聞で彼が岐阜でJを目指すという記事を見た。彼は岐阜が好きなんだと思った。その後の活躍、昇格ドラマはご存知のとおり。彼と出会った県営グラウンドは長良川競技場となり、今日彼はそこでユニフォームを脱ぐ。

お疲れ様、そしてこれからも岐阜の人たちにサッカーの魅力とスポーツ文化を伝えてください。モリヤマ君。(山田)

●サポーターの皆様、今季お疲れ様でした！
わたしもFC岐阜とともに1年を奔走し、あつという間でした。週2は練習場にお邪魔し、FC岐阜を担当させて頂き、ほんとFC岐阜に成長させてもらったと感じます。自分の不甲斐なさに情けなくなったこともありますが、喜怒哀楽を共にし、勉強させて頂いたことにほんとと感謝しています。

だけに、今季の解雇は涙が出ました。辛かったあ……。でも、その何百倍も辛い選手の苦しみを胸に最後まで精いっぱい応援しようと思えます。

岐阜に来て2年目ですが、こんなに打ち込める仕事ができるのは初めてです。表舞台ではない部分も、FC岐阜のことばかり。来季も大好きなFC岐阜を一生懸命応援していきます！皆様よろしくお祈りします。(ぎふチャンのおけい)

●今日でJでの、初めての一年が終わる。長いようで短い、とはいえ途中で遠征疲れも感じた(笑)とても深くで、盛りだくさんな一年だった。そして、最終戦を前に突きつけられた辛く厳しい現実。もちろん、このメンバーでやれるのはこの一年のみ。終了後は、誰かがいなくなることはわかっていた。だからこそ、一試合一試合を大事にしたかったし、一瞬たりと見逃したくなかったから、できるかぎり通い続けて今日が43試合目。勝った試合は全部観た。負けた試合も全部観た。引き分けは一試合だけ現地観戦が叶わなかったが…。

さすがにJは甘くなかった。胃の痛くなる思いも、この身が削られるような思いもした。石のように固まったまま動けなくなることもあった。キツイ現実を味わうことが多かったのは残念だけど、それでも幾度となく歓喜に震え、雄叫びをあげ、仲間とあるいは見ず知らずの方と興奮と感動を分かち合うことができた。その瞬間を、できるだけたくさん味わいたい。ボクらの生活の中で、現地観戦を最優先し通い続けたのは、そのためだといえる。

大好きなクラブ、応援するクラブが地元にある。この事実は、何物にも代えられない。楽しいことばかりでも嬉しいことばかりでもない。むしろ、辛く悲しいことが多いかもしれない。怒りを感じることもある。けれども、その全てをボク自身のモノとして感じることもできるのも、ある意味幸福のカタチのひとつ。このクラブに生じるいろんなことを、感じ分ち合って、ひとつのファミリーになれたらいいな、そう願わずにはいられない。

来年も観戦に行くよ。だけど、家族になるんだからね、厳しい注文も言わせてもらおうかな？(ぐん、)

●伊藤コーチ、辛島コーチ、ゴベッチの指導力はこのチームにはもったいないくらい。よっさんのプロ意識の高さは特筆。指導者の重要性を痛感させられた。

岐阜にカリスマを持つ営業の人間を作るべき。チームのアピールポイントが理解できるようにすること。PR不足。

セットプレーの「守備」を追求してほしい。監督がダメとは言いきれない。逆にプロ選手だからそれくらいやるべき。できないならば去ればいい。ただ分析は認めるが与えられる情報が多すぎて、明らかに選手が理解できていない。よっさんに対し、チームとしてライセンス取得の補助を希望。育成者としては指導が適切で有望株。

監督自身と各選手へのケア&意見の活発化ができる環境を作る。森山はライセンス取得を中断して営業に回すこと。あの人は育成者には厳しいと感じた。

松永サッカーはピッチではあまり理解できない、故に練習見学をした人間くらいしか分からない。ボールしか見ていない状況になるのは当然。CKの練習は一日15分すらやったのを見たことがない。なので、セットプレーから得点できるとは思えない。(ヘルハース)

●金銭的な問題はともかく、今季の岐阜のサッカーについての答えが、あの戦力外通告だったと思います。つまり、「今までやってきたことは未来につながらない」から、主力選手の大量解雇に踏み切ったとクラブ自ら判断したのはある意味英断と言えるでしょう。戦力外通告によるリセットは、いつかは必ずやらなければならないことだと思っていたので歓迎しますが、これで終わりにしてしまうのは中途半端。ここまで大幅な入れ替えを断行した以上、クラブは来季どんなサッカーを志向するのか？という明確なビジョンを内外に示す必要があるはずだ。

「子供たちに夢を！」はクラブの理念ですが、それだけではサッカーにおいてその理念を如何に具現化するのか？という問題に答えられないわけで、明確なビジョンを示さなければ、選手はもちろんサポもついていくことはできないでしょう。

逆に言えば、ここでしっかりビジョンや計画を示すことで、クラブがより強力な求心力を得るチャンスになると思いますが、サポもそれを待ち望んでいるのではないのでしょうか。(つる)

●何処へ行くんだらう??
ついこの前までは、強者たちが操り前見つめていた。今、その強者達が居なくなる。それぞれに、事情はあるだろうけど、乗せてもらっている我々は……

誰に、聞けばいいのか……!!
何処に向かっているんですか?
船長は、何故説明しないの?
小さな川を出てきてから、やっと大河の入口に近づいた。

これからと、思い馳せていた時に……
どうか、迷うことは避けてください。
そして難破船だけにはならないで……!!
今でも、あの思い出は忘れない……

あの伝説のコウロギの出来事は……
砂埃舞うグラウンドで森山が伊藤が平岡が……
熱き心見せてくれた……日を……
思い出そうよ……あの熱き心をみんなで……

追い詰められた時の、あの反骨心を……
行く人……来る人……
熱き心何時までも……!!
(アマラス)

●『つまらない一年』でした。DMには堪えられない素敵なシーズンでした。来年は松永監督がどれだけヒールに徹する事が出来るかに尽きるでしょう。愛されるチームでなく憎まれるチームがあっても良いかと。(CCNの労働者)

●僕がFC岐阜に望むことは、ただの「勝利」でも、ただの「敗北」でもありません。最後まで全員がひたむきに戦い抜いた上での「勝利」であり「敗北」を望みます。来季は、例え敗北したとしても、長良川に集った人々の胸を打つチームであって下さい。それが僕の望む全てです。(マツヒラ)

●来季のチームに望むのは、ホームでも勝ってほしいという事です。アウェイでも勝ってほしいのですが、やっぱり地元で喜びを分かち合いたいです。(ブラウ) -

●FC岐阜のスタジアムMCを担当させて頂いて丸2年が経ちました。そもそも、岐阜FMの朝の番組「モーニングバード」内で、FC岐阜のコーナーを担当することになったのがきっかけで、やらせていただいたお仕事だったのですが、最初は全くサッカーのことが分からず、ハラハラドキドキの連続。私で本当に大丈夫なのかと、最初は不安でいっぱいでしたが、当時はまだ社会人リーグにいた「FC岐阜」というチームが夢に向かって頑張っている姿を、間近で見ているうちに不安は一掃。いつの間にか、家族のような気持ちで応援している自分がいました。

スタジアムMCの仕事は、来てくださったお客さんへのお知らせをアナウンスしたり、メンバー紹介したり、イベントの進行をしたり様々ですが、私がアナウンスをするにあたって心がけていることは、「おもてなし」の気持ち。私が大好きな「FC岐阜」の試合を見にきてくださった人たちに、快く観戦していただくため、そして他県からきてくれたお客さんに、「岐阜の魅力」を少しでもわかってもらえたら。そんな思いでやらせていただいています。

今シーズンはなかなか思うような試合をやらせてもらえなかった1年でしたが、3年前はまだ社会人リーグにいたチームが、今、夢のJリーグの舞台に立てている奇跡。そこにはドラマがあります。なかなか勝てないそんな時期があっても一緒に乗り越えていくことで、地域に一体感が生まれ、それが子どもたちに夢を与えることになればと思います。

たいしたことはできないかもしれませんが、スタジアムMCとして、そしてラジオのDJとして、これからも岐阜の魅力の心を込めて伝えていくことで、少しでも力になっていきたいです。

ホーム最終戦である鳥栖戦は、我がFC岐阜にとって、2008年を締めくくる試合。チームのため、今季限りで去っていく選手のため、そして、我が郷土、岐阜のため、みんなで応援していきましょう。(ナイス西村)

たいしたことはできないかもしれませんが、スタジアムMCとして、そしてラジオのDJとして、これからも岐阜の魅力の心を込めて伝えていくことで、少しでも力になっていきたいです。

ホーム最終戦である鳥栖戦は、我がFC岐阜にとって、2008年を締めくくる試合。チームのため、今季限りで去っていく選手のため、そして、我が郷土、岐阜のため、みんなで応援していきましょう。(ナイス西村)

Living in Woods
本庄工業株式会社
<http://www.honjo-woodream.com/>

◇FC岐阜とシーズンを戦った相手クラブのサポの方々からもメッセージをいただきました。

●ー「なんだか、出張だと張り切るが本社ではさっぱり仕事をしない社員みだいで、よくない。」

(宮脇俊三『時刻表2万キロ』より)

古い本を読み返していたら、今季の岐阜さんのような一節を見つけたので(笑)、謹んでご紹介申し上げます。

しかし、出張先で暴れられるほうはたまったもんじゃありません。山形ばかりか福岡でも5得点を挙げたときには、「次はウチか!?!」と震撼したチーム&サポが(私を含め)少なくなかったと思います。シーズン途中で自らトーンダウンしてしまったようですが、アウェイではイケイケを貫いたほうが怖かったですね。……なーんて偉そうなことは言えません。長良川でもベアスタでも、サガンは岐阜さんに対してヘタレたパフォーマンスしか見せてないからねえ。「こんなへなちょこチームがJ1昇格争いに加わっているJ2っていいたい……」と岐阜のみなさん混乱させてしまったことと思います。さて今日(最終節)はどうなることか。(鳥栖サポ/KM生)

●J2初年、お疲れ様でした。セレッソとしては、長良川は大変に相性の良いスタジアムのように……。長良川で頂いた勝ち点6も然ることながら、なんといつても得点11が大きい。現在(43節終了時点)の得失点差+16、この大半は長良川のおかげです。

また、サポ視点から見て、スタジアムグルメが素晴らしい。てか、羨ましい。あの反則級の屋台群にはヤラれっ放しでした。何もかも、実に旨かった……。随分と、財布の中身を吸い取られましたよ。是非とも、我等がホーム長居に、見習って欲しい所です。

さて、どうやら来期も、同じカテゴリーでまみえる事になりそうな感じ。その際は、是非とも長良川での試合を多めにお願いしたいものですね。近場のアウェイで、相性も良く、グルメも充実……。遠征のし甲斐のある、素晴らしいスタジアムですから。来シーズンも、よろしく願います。いろんな意味で。(C大阪サポ/みの字)

●FC岐阜サポーターの皆様。記念すべきJリーグ一年目のシーズン、お疲れ様でした。私はGWにお邪魔させて頂きましたが、とても温かく紳士的に接して頂いた事が、印象的に心に残っています。JFLから昇格した勢いで戦って来た一年目とは違い、二年目は色んな意味で真価を問われる一年になります。短いスパンで結論を出さないで、サポーターの皆さんも強い気持ちで戦って下さい。来シーズンも同じカテゴリーの中で戦う事になりますが、どうかお手柔らかにお願いします。(愛媛サポ/かずう)

●今シーズン、岐阜さんとは三度対戦しましたが、結果は1分2敗と完璧にやられてしまいました。とくに8月の対戦では勝てそうな展開だっただけに、追いつかれて悔しい思いをしました。長良川には2度行かせてもらいましたが、スタジアムグルメが充実していたのが印象的でした。明宝フランク、飛騨牛の串焼き、ホテルのメロンパンにカレーライスと美味しいものばかりで、いつも食べ過ぎてしまっただけにあまり跳べず、今から思えばそれが岐阜さんの畏だったのかもしれない(笑)。

それと、8月の試合で敗れた後、かつて徳島に在籍していた小峯さんがアウェイ席へ挨拶に来てくれたのですが、「徳島も悪くなかったと思いますよ」と上から目線で言われたのが記憶に残っています。まあ、順位は徳島の方が下ですから、仕方ないですが(苦笑)。今シーズンはお互いに残念な成績でしたが、来シーズンはもっと上を目指して切磋琢磨していきましょう!岐阜サポーターの皆さん、ぜひ徳島へもお越しください。(徳島サポ/ナカヲ)

●水戸サポから見た、2008岐阜さんは「なんで笠松になると、そんなに強いんだあああ」ですね……GWのゴリ「おそろく」ラストゴールにしてもそう10月の完敗ぶりもそう、なんでこうなるんだと……特に10月の時は3点目のクロスを上げたのが、個人的に縁のあった嶋田正吾だったせいもあって……(遠い目)。

岐阜サポの皆さん、勝利を見なければ笠松へ来てください(来年は見られませんが(笑))。来年、茨城の筑波大学から4人の選手が岐阜さんには入ります。西川君は水戸の練習にも参加してたんですが、落ちたという縁があるので、水戸戦「以外」では期待しててください。「槍の西川」ってプレーをしますから。

我々、水戸ニスタは来年も長良川で何かを起こしてやります。今年集団マンボ「う!」は岐阜サポ側では誰も気がついてくれなくて寂しかったので注目してください。大垣だろうと中津川だろうと行きますからね!

最後に、深津、お疲れ様。水戸サポはまだ君を忘れてないからな。(水戸サポ/izumi.)

●岐阜隊は開幕節しか見てないのに何を話せと言ったところなんです。同点の場面あのシチュエーションでゴジゴジにパスが回った瞬間に「やられた」と思ったのは唯一鮮明に覚えてたりします。まあ岐阜隊のJファーストゴールを生で見れたってのはそれはそれで良かったのかな、と。(甲府サポ/運び屋A)

●今世紀中にもう長良川に行く機会は訪れないかもしれない……という危機感を抱きつつ、第2節に伺いました。あれからもう9カ月も経つんですね。前日は国宝犬山城を観光し、岐阜の夜も満喫しました。「飛騨牛串焼き」や『岐阜グランドホテル』の「カレーライス」などのスタジアムグルメはかなり美味しかったですし、試合は山田正道様のオウンゴールで仙台の勝利。「応援のど飴」も買って帰りました。もう思い残すことはないはずでした。

しかし、問題は第28節。仙台の天敵・梅田高志の西濃時代の元同僚・村上伸次の笛に苦戦を強いられ、引き分けて終了したのは八〇長かと涙しました。梅田高志に替わって大友慧が途中出場、仙スタに戻ってきたのは少し嬉しかったです……。

第44節を終わって、仙台は17勝16分8敗という惨憺たる成績で、何故か?未だに3位という成績に位置してられるのも、勝ち点を今季7点もプレゼントしていただいた岐阜様、また特に山田正道様のお蔭と言って過言ではありません。本当にありがとうございます。ご尽力にも拘らず、残念ながら、仙台は来季も長良川に行けそうな雲行きですが、その際は今季以上に暖かくお迎えいただければ幸いです。再見!(仙台サポ/J1昇格は幻?)

●「岐阜がいなければここまで苦労しなかったんだあ!」とつい叫びたくなるくらい、我が山形は苦しめられました。私は第2クール@長良川しか観ていませんが、気迫のこもった好内容に思わず完敗宣言。なので現在の数字には大いに疑問が……。山形OBの高木和正は生き生きと感じられて嬉しい限りです。来年は2ケタ得点を!以前から存じてますが、「ゆ〜らゆ〜ら」のチャントよいです。ゴリサド好きです!来年はどうなるんだろう……。スタジアムについては、長良川はバック側が何とかならんかというのではありませんが、アクセスが天童と較べ物にならないので問題なしです。ただ来年は長良川が改修に入るとのことで、リーグからの許しが出るか分かりませんが、個人的には多治見とか中津川とか普段ない会場での開催を切に望みます(笑)。(山形サポ/無料試合のS)

投稿くださった他サポの皆さま、ご協力誠にありがとうございました。来年はもう少し上の順位で戦えるよう、がんばります。あと、「長良川では勝ち点がもらえる♪」という『カン違い』をされている方は、来年は少しだけ覚悟して下さい(笑)。

●編集子から一言。

なんとかシーズン皆勤発行が出来ました。投稿してくださった方々、印刷に協力してくれた方々、ホーム戦で配布に協力してくれた方々、スポンサーになってくださった方々、そしてなによりこのサポMDP『岐大通』をお読みいただいた方々に、巻末ではありますが厚く御礼申し上げます。来シーズンですが、まったく決めていません。出すかどうか分かりませんし、編集担当を分業にするかもしれません。ただ、『岐大通』がどうなるうとも、FC岐阜は続きます。物語は積み重なっていくのです。それは、南海の珊瑚礁のように、いつかは大きなカタチとなることでしょう。

1年間のご愛読、ありがとうございました。(吉田鑄造)



1年間ありがとう!
来年も、スタジアムでFC岐阜を応援しよう!

絵: ひらっち